

平成29年第1回（2月）掛川市議会定例会
一 般 質 問 発 言 順 序

- | | | |
|---|-----|-------|
| 1 | 3番 | 大場雄三君 |
| 2 | 21番 | 高木敏男君 |
| 3 | 8番 | 松本均君 |
| 4 | 2番 | 雪山敏行君 |
| 5 | 10番 | 山本裕三君 |
| 6 | 5番 | 窪野愛子君 |
| 7 | 19番 | 中上禮一君 |
| 8 | 17番 | 鷺山喜久君 |

平成29年第1回(2月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

3/7 AM 3番 大場雄三君

21番 高木敏男君

PM 8番 松本均君

2番 雪山敏行君

10番 山本裕三君

3/8 AM 5番 窪野愛子君

19番 中上禮一君

PM 17番 鷺山喜久君

一般質問通告要旨

議席番号	3	氏名	大場雄三	質問の方式	(一問一答)・一括
------	---	----	------	-------	-----------

1 平成29年度市長施政方針について

(答弁：市長、教育長)

第2次掛川市総合計画の重点施策に掲げられた「掛川への新しいひとの動きをつくる」、「掛川にしごとをつくり安心して働けるようにする」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「明日の掛川をつくり豊かで潤いのある安心な暮らしを守る」を実現するためには、施策ごとにターゲットを的確に定め、推進していくことが重要である。特に少子高齢化社会に立ち向かい、将来人口の増加を目指すために必要とされる施策について伺う。

(1) 将来人口ビジョンと人口増加施策について

ア 年齢別人口構成の推移と将来予想には、自然増減を把握する必要がある。

そのためには、現在の5歳区分ではなく、年齢区分ごとの調査分析が必要と考えるが、見解を伺う

イ 自然増加には合計特殊出生率を向上させる必要がある。子育て世帯の経済的支援を目的に、第3子以降の出産に対して出産祝い金制度を新設する考えはないか伺う

ウ 社会的人口移動の推移と将来予想について、現在どのような分析が行われているのか伺う

(2) シティプロモーションについて

ア プロモーションを推進するうえでは、年齢や性別など、ターゲットを絞り訴えかけていくことが重要だと考えるが、見解を伺う

イ プロモーションの手法については、マスメディアやソーシャルメディアを活用することが有効と考える。そこで、市職員が旅行会社等へ直接売り込んだり、無料動画サイト（YouTube）等を活用したりする考えはないかを伺う

(3) 掛川茶の振興について

ア 掛川茶ブランドの確立のためには、他市町からの入り作も増加していることを考慮すると、産地表示定義を明確に定める必要があると考えるが、見解を伺う

イ 生葉生産者の高齢化や後継者不足を解消するためには、茶園集積と茶園共同管理は喫緊の課題である。JAと協働して推進していくことが必要だが、市としてはどのようにリーダーシップをとっていくのか伺う

ウ 成果指標について、掛川市全体として茶業の底上げを図るためには、茶市

場での平均単価を目標値として明示することが必要と考えるが見解を伺う
エ 「静岡の茶草場農法」を発信していくためには、粟ヶ岳ビジターセンターは必要な施設だと考えるが、現在の構想について伺う

(4) 文化振興について

ア 茶エンナーレにおいて、文化芸術との融合が、どのような観点で緑茶の消費につながるのか伺う

イ 文化芸術活動サポートセンターについて、どのような構想があるのか伺う

ウ 歴史的風致維持向上計画について、具体的な内容を伺う

(5) 庁内体制について

ア 市長政策室について、トップマネジメントによる迅速な市政運営を図り、政策形成を所掌するとのことだが、副市長2名体制と併せ、どのような狙いがあるのか伺う

イ 職員の配置について、第2次総合計画を確実に推進していくためには、一定のローテーションでなく、長期の配置により専門性を持った職員養成が必要と考えるが、見解を伺う

(6) 防災体制の強化について

ア 地震が起きた瞬間には、状況によって避難行動は異なってくるが、死者ゼロを実現するためには、予防訓練の実施や安全ゾーンの設置など、市民への意識向上を図る必要があると考えるが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	21	氏名	高木敏男	質問の方式 (一問一答・総括)
------	----	----	------	-----------------

1 平成29年度市長施政方針について (答弁：市長)

施政方針では、「障がい者が適切な医療を受けるための環境整備について検討会を立ち上げる」、「市とともに公共サービスを担うことができる地区まちづくり協議会に成長していくことができるよう、更なる環境整備に努めていく」、「私は、まちづくりの目指すところは、人々が『夢』や『希望』を持てる社会を創り上げることであり、このことが私たち行政に携わる者の責務だと思っている。」と述べている。そこで、以下の項目について伺う。

(1) 障がい者が適切な医療を受けるための環境整備について

ア 障がい者にとって適切な医療とは、どのような医療を想定しているのか伺う

イ 検討会を立ち上げるとあるが、具体的なスケジュールを伺う

ウ 検討会のメンバーは、どのような人を考えているのか伺う

(2) 公共サービスを担うことができる地区まちづくり協議会について

ア 公共サービスの内容は、具体的に何を考えているのか伺う

イ 公共サービスを担ってもらうことは、まちづくり協議会への押しつけにならないか。また、協議会では、それを望んでいるのか伺う

(3) 夢や希望が持てる職場環境について

ア 市の職員について、「夢」や「希望」を持つための職員研修は、どのようなに行っているのか伺う

イ 本年度は職員2名が中途退職され、政治家への道を志したが、市長は彼らに職場での夢や希望を与えられなかったのか伺う

2 子ども・子育て支援特別委員会の提言について (答弁：市長)

特別委員会では、7つの提言を行った。その中の一つに、「高齢者支援から子育て支援に財源をシフトさせ子育ての充実を図るための財源を確保すること」とある。そこで、次の点を伺う。

(1) 敬老会の該当年齢を段階的に80歳に引き上げたらどうかと考えるが、市長の見解を伺う

3 家族の記念日を大切にすゝる条例の制定に向けて

(答弁：市長)

まちづくりの根幹は家族である。今こそ家族の絆、支え合い、助け合いを再認識し、ぬくもりに溢れた暮らしを実現するためにも、家族の記念日を大切にすゝる条例を制定することは大切であるとする。市長の考えを伺う。

4 生活介護施設の整備について

(答弁：市長)

掛川特別支援学校が開校して間もなく2年が経つ。今後、高等部を卒業する生徒は毎年いるため、その受け皿としての施設が必要である。生活介護施設の整備についての考えを伺う。

- (1) 市内の小中学校および掛川特別支援学校における発達障害児数や高等部卒業後の進路希望等、現状をしっかりと把握しているのか伺う
- (2) 掛川市単独での整備方針なのか伺う
- (3) 整備スケジュールをどのように考えているのか伺う
- (4) 施設設置に向けて県や国の補助採択など、ハードルは高いが見通しはあるのか伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	8	氏名	松 本 均	質問の方式 (一問一答・一括)
------	---	----	-------	-----------------

1 掛川城を中心とした文化エリアの管理と観光客獲得について (答弁：市長)

NHKの大河ドラマ「おんな城主 直虎」が大変人気であり、浜松市には多くの観光客が訪れている。掛川市も「井伊家ゆかりの地」として、掛川城を中心とした文化エリアに多くの観光客を招き入れる対策が必要である。また、シティプロモーションを進める上でも重要なエリアと考える。しかし、掛川城も「本格木造建築」として市民の寄付や行政の努力で建設されてから20年が経ち、老朽箇所が目につくようになった。今後、掛川城天守閣・御殿・太鼓櫓・二の丸茶室・竹の丸等の観光施設の維持管理と観光客獲得について、考えを伺う。

- (1) 掛川城の修繕計画と予算について伺う
- (2) 太鼓櫓の活用法について伺う
- (3) 大河ドラマに合わせ、観光客を獲得する施策について伺う
- (4) 御殿の敷地内にある老木など、危険な樹木の管理について伺う
- (5) 二の丸茶室や竹の丸にも建物の老朽箇所が見受けられ、修繕が必要と思うが所見を伺う
- (6) 二の丸茶室で提供している抹茶は他産地のものと聞いているが、掛川産の利用について伺う

一般質問通告要旨

議席番号	2	氏名	雪山敏行	質問の方式	(一問一答)・一括
------	---	----	------	-------	-----------

1 「つま恋リゾート彩の郷」支援について (答弁：市長)

「ヤマハリゾートつま恋」の譲渡先として、平成28年12月末にホテルマネージメントインターナショナル株式会社（HMI）との合意ができ、「ヤマハリゾートつま恋」が果たしてきた実績が引き継がれるのではないかと安堵したところである。

このとき市長の発言として、「つま恋が国際リゾート施設として飛躍するためにも、市として応援すべきものがあれば検討しなければならない」との報道があり、また、同様なことを本議会の平成29年度市長施政方針でも述べている。

「つま恋」を活かしたまちづくりの推進を図るため、効果的で合理性のある支援が必要と考えている。そこで次の5点について伺う。

- (1) 「ヤマハリゾートつま恋」の営業実績についてどのように評価し、営業停止に伴う地域経済損失をどのように分析されているのか伺う
- (2) 新たに引き継ぐことになった「つま恋リゾート彩の郷」に期待することは何か伺う
- (3) 引き継ぎ先の「つま恋リゾート彩の郷」と面会され、その経営方針をどのように受け止めているのか。また、掛川市へどのような支援要請があったのか伺う
- (4) 「つま恋リゾート彩の郷」の経営が軌道に乗るためには、なんらかの支援が必要と考えるが、どのような基本方針で臨むのか伺う
- (5) 支援は掛川市のみならず、周辺市や県との連携が必要と考えるが所見を伺う

2 長年の課題（沈滞）となっている施策のイノベーションについて (答弁：市長、教育長)

掛川市においても長年課題（沈滞）となっている施策が数多くある。「ルーチンワークをこなすだけでなく、全く新しい組み合わせで生産要素を結合し、新たなビジネスを創造することが沈滞を招かない。」と経済学者ヨーゼフ・シュンペーターが唱えた学説による「新結合（イノベーション）」が、沈滞した行政課題を解決する方法でもあると考えている。

そこで、長年の課題となっている「中山間地域の衰退」、「農業の担い手の育成」、「教職員の多忙解消」の3課題に絞りイノベーションの観点から次の3点につい

て伺う。

- (1) 3課題は長年の課題であり、出口が見えない状況にある。この現状分析を伺う
- (2) 3課題のイノベーションをどのように考えているのか伺う
- (3) 平成29年度予算において、3課題の解消に向け、どのように取り組むのか伺う

3 新東名掛川PAへのスマートインター設置について

(答弁：市長)

県内各地では、新東名高速道路のもたらす経済効果を地域に取り入れることを目指し、新東名高速道路との結節点となる、スマートインターチェンジの設置計画が着実に進展している。スマートインターチェンジの設置は、掛川市はもとより、東遠地域の経済発展及び、掛川PAに設置されているヘリポートの防災面での活用もあり、欠くことのできない施設である。とりわけ、内陸フロンティア構想の上西郷工業用地への企業誘致の切り札であるとも考えている。

このような観点から以下の4点について伺う。

- (1) 新東名掛川PAへのスマートインターチェンジ設置による経済効果をどのように分析されているのか伺う
- (2) 掛川PAとハイウェイオアシス構想への連結協議状況を伺う
- (3) 課題とされているアクセス道路整備（上西郷工業用地内道路経由、焼津森線経由）の検討状況と見通しを伺う
- (4) 掛川PAへのスマートインターチェンジ設置に向けて市長の決意を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	10	氏名	山本裕三	質問の方式	(一問一答)・一括
------	----	----	------	-------	-----------

1 子どもや若者が楽しめる街を目指して (答弁：市長)

掛川市には、大小合わせて228箇所の公園が配置されている。しかし、中には、数十年前に設置された遊具がある公園や、ほとんどの遊具が撤去されてしまった公園などもあり、子どもをはじめとする市民が楽しめる環境ではない。

平成27年度の高校生を対象とした意識調査では、「公園や文化施設、レクリエーション・スポーツ施設」が掛川市には足りないとの回答が合計25.9%あった。実際の施設数は、近隣市や人口の同規模市と比べても多いくらいである。つまり、数はあっても「若い世代、子ども達の目線において魅力的な場所がない。」ということである。そこで、子どもや若者の「今の感性、楽しみ方」に合わせた街づくりが必要と考え、以下の点について伺う。

- (1) 近隣公園や総合公園のような比較的大きな公園のあり方を検討し、長期的視点に立った整備・活用が必要と考えるが見解を伺う
- (2) 子ども達が安心して遊ぶことができる環境づくりには、防犯カメラの設置等、安全対策が必要と考えるが見解を伺う
- (3) 2020年東京オリンピックでは、「ローラースポーツ (スケートボード)」、「スポーツクライミング」が新種目として採用され、注目を集めている。

また、雪がなくてもスノーボードができる施設、「QUEST (クエスト)」も全国に広がっている。これらの施設を整備あるいは誘致できれば、市民も気軽に新しいスポーツを楽しむことができるとともに、県内外からの集客にもつながると考えるが見解を伺う

2 行財政改革の効果と今後の推進について (答弁：市長)

平成22年度から行われている掛川市第2次行財政改革プランは、平成29年度当初予算に反映させ終了となる。また、第4期行財政改革審議会は、「公共施設マネジメント」の第一人者でおられる南学先生を座長として議論が交わされた。そこで、行財政改革プランの区切りとなる今期において、以下の点を伺う。

- (1) 掛川市第2次行財政改革プランに取り組んだ成果と課題、そして今後必要なことは何かを伺う
- (2) 第4期行財政改革審議会から提言されている、「包括施設管理業務委託」について見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	5	氏名	窪野愛子	質問の方式	(一問一答)・一括
------	---	----	------	-------	-----------

1 住宅用火災警報器の設置率向上への取り組みについて (答弁：市長)

平成28年に市内で発生した火災件数は昨年より12件増加の46件であった。一般住宅からの火災は10件発生し2人が亡くなられた。住宅用火災警報器の設置が義務付けられ4年が経過した平成25年度のアンケート調査の結果では、市内の設置率は59.4%であった。その後、消防本部予防課の取り組みにより設置率の向上が図られてきたものの、依然として国・県を下回る74%の設置率である。設置率100%を目指す今後の取り組みについて伺う。

- (1) 設置率が59.4%から74%に向上したが、どのような取り組みをしたのか伺う
- (2) 警報器未設置の住宅に対する今後の取り組みについて伺う
- (3) 新築住宅設置義務化から10年が経過し、電池やセンサーの交換時期となる。点検や電池交換への啓発活動について伺う

2 掛川市の魅力を活かした市街地活性について (答弁：市長)

平成26年度に策定された中心市街地活性化基本計画は、「まちなかの賑わいを創出」、「まちなか居住の促進」、「まちなか交流人口の増加」の3つの目標を掲げている。基本計画策定から25年が経過した掛川駅前東街区市街地再開発施設整備も、昨年9月にマンション棟の竣工をもって完了した。昨年度、次なる課題となる西街区再開発に向け特別委員会が組織され、誰もが愛着と誇りが持てる魅力あるまちなかの活性化について検討がされた。他市では遊休不動産を活用したりノベーションの手法を用いて、まちなかの賑わいを取り戻している事例もある。本市の今後のまちなか再生について伺う。

- (1) 現時点での東街区市街地再開発事業の評価を伺う
- (2) 掛川駅前西街区再開発事業の進捗について伺う
- (3) 若者が活躍できるまちづくりには、若者の声を聴く仮称「若者会議」の創設が必要と思うが見解を伺う

3 男女の人権と性を尊重する教育の充実について (答弁：教育長)

平成27年に女性活躍推進法が制定され、当市においては本年度、掛川市男女共同参画条例が改正された。また、第2次計画期間終了を受け、第3次男女共同参画行動計画も策定される。その基本的施策に掲げられた「男女の人権の尊重及び男女平等の推進に関する教育や学習機会の充実」、「性に関する理解促進と男女の健康支援」について、男女平等の意識の醸成や性的マイノリティ（LGBT）への理解、とりわけ性同一性障害（トランスジェンダー）への理解や支援が必要と思うが、学校現場での取り組みや今後の対応について見解を伺う。

- (1) 男女の人権尊重及び男女平等等への意識改革はどのように図られてきたのか伺う
- (2) 平成27年4月に文部科学省から発せられた、性的マイノリティの児童・生徒への配慮を求める通知を受け、教育委員会としての対応と、今後の取り組みについて伺う
- (3) 性同一性障害について、教職員の研修を深める必要があると思うが見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	19	氏名	中 上 禮 一	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

1 学校図書、市立図書館の運営について (答弁：市長)

言葉に興味・関心を示し始める幼児期は、絵本で言葉を覚え、成長するにつれ読み聞かせや読書によって言葉の世界を広げていく。そこには、最初の教師として親がおり、親が読書をすれば子どもも真似る。子どもの読書環境は大切である。

今年の静岡県小・中学生の主張で小学6年生が綴った「ことばの力」を読んで「言葉は心から、言葉は心に」ということを改めて学んだ。学校図書で大切なことは読書環境を整えることである。

また、社会の変化も目まぐるしく、学習方法も多様化しているが、図書館としての基本的な機能は保ちつつ、生涯学習を支える市立図書館としてのあるべき姿を追求していくことは大切なことである。そこで、次の点について伺う。

- (1) 平成29年度予算では、学校司書の増員は予算化されていない。選書は人を育てる大切な仕事である。読書の大切さを説く市長の考えが活かされていないと思うがいかがか
- (2) 掛川文化のさらなる醸成と情報発信の強化に向けて、図書館長に専門家を迎えてはどうかと思うが見解を伺う

2 海岸防災林「潮騒の杜」強化事業について (答弁：市長)

平成29年度の整備予定は600メートルである。事業を本格化するとのことであるが、本格化というには物足りない数字である。

市長は、安政東海地震から162年が経過し、巨大地震はいつ起きても不思議ではないとの見解であり、減災に向けた対策は急務である。潮騒の杜の整備は南部地域の安全と地域活性化に向けた最も大きな事業で、掛川モデル推進協議会でも早期完成を心待ちにしている。そこで、次の点について伺う。

- (1) 海岸防災林「潮騒の杜」強化事業の工期短縮について見解を伺う

3 観光施策の成果と今後について (答弁：市長)

平成28年度の組織機構の特色として人事交流等がある。地域振興に向けた新たな取り組みとして大いに期待をしてきたところである。特に魅力ある観光地域づく

りの舵取り役として、近畿日本ツーリストからDMO担当参事を迎えて進めてきた。また、訪日客数増加の一方、中国人らの「爆買い」の沈静化など、観光を取り巻く環境が年々様変わりをしている。そこで、次の点について伺う。

- (1) 観光誘客促進策として、どのような取り組みが行われたのか。また、その成果について伺う
- (2) 魅力ある観光商品として、現在企画されている商品を伺う
- (3) 将来の観光のあり方など、新たな方向性について伺う

一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	17	氏名	鷲 山 喜 久	質問の方式 (一問一答・一括)
------	----	----	---------	-----------------

1 掛川東環状線について (答弁：市長)

西山口地区区長会は、市民総代会西山口地区集会において東環状線の早期完成について取り上げて来た。本路線の整備について伺う。

- (1) 早期完成に向けた現在の取り組み状況を伺う
- (2) 平成21年に事業費が4車線で211億円と概算されている。莫大な事業費であるが、早期完成実現の可能性はあるか伺う
- (3) 菊川市との連携を図りながら進めるとしているが、現在どのような連携をされているか伺う
- (4) 市は、県道として県に整備要望する考えを持っているが、協議の結果について伺う

2 宮脇秋葉線について (答弁：市長)

宮脇秋葉線は、昭和47年に都市計画決定されたが、市道として未整備の状態である。そこで次の点を伺う。

- (1) 今後の整備計画について伺う
- (2) 完成予定時期を伺う

3 山口橋側道橋について (答弁：市長)

仮称「本村橋」は、成滝の本村と満水の高畑をつなぐ橋であるが、現在、本村橋に替わり、山口橋への側道橋の整備計画がある。そこで次の点を伺う。

- (1) 現在の進捗状況について伺う
- (2) 完成予定時期を伺う